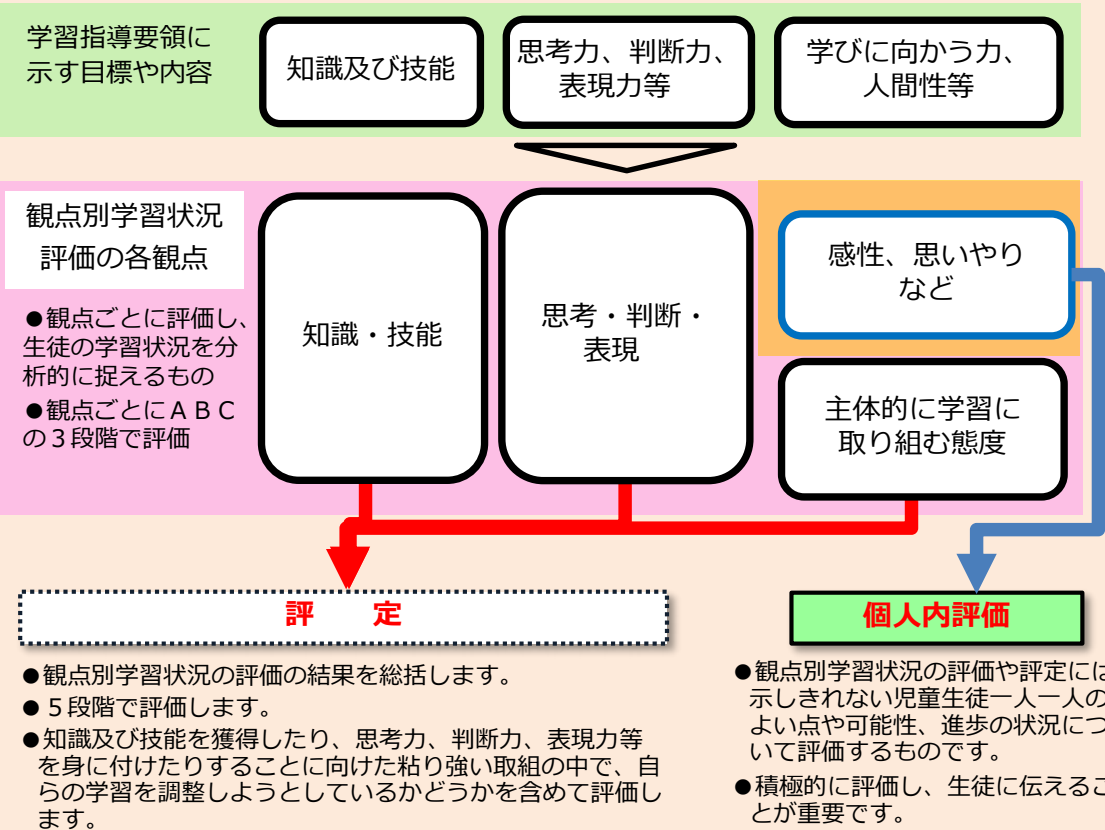


▼学習評価の基本構造

＜参考＞文部科学省「児童生徒の学習評価の在り方（報告）」
平成31年1月21日 文部科学省



▼観点別学習状況の評価の観点の整理

＜平成21年改定＞

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

＜平成30年改定＞

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

専門教科は「知識・技術」

学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科等における観点別学習状況の評価の観点も3観点に整理されました。

▼評価の観点と趣旨（共通教科「家庭」）

1. 教科の目標と「評価の観点と及びその趣旨」との対応関係を確認する（家庭）【参照 P.30】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解していると同時に、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

2. 科目の目標に対する「評価の観点と趣旨」を作成する（家庭基礎（例））【参照 P.31】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

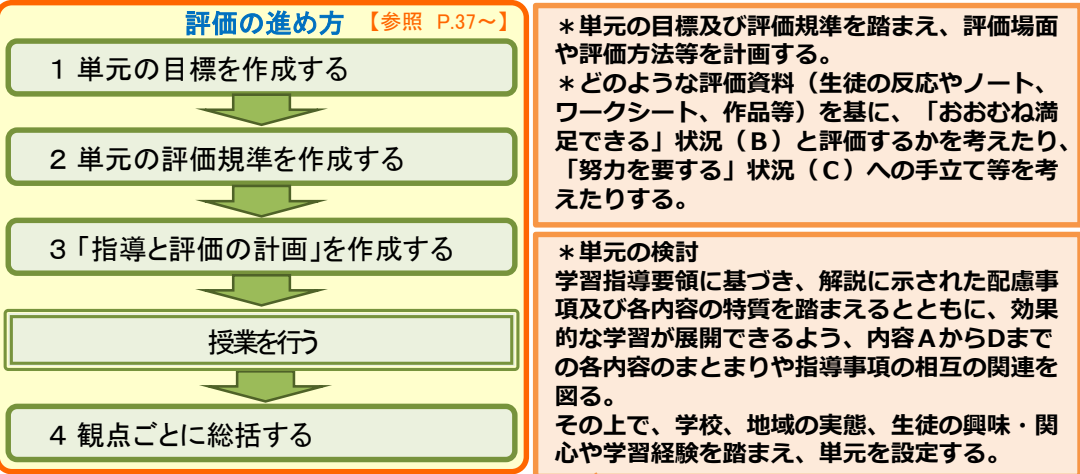
3. 「内容のまとめりと評価規準」を作成する【参照 P.32～】

- ① 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。
 - ② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりと評価規準」を作成する。【観点ごとのポイント】
 - 「知識・技能」については、学習指導要領「2 内容」の「知識及び技能」に関わる事項の文末を「～している」「～できる」と変える。
 - 「思考・判断・表現」については、学習指導要領「2 内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項の文末を「～について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、生涯を見通して生活の課題を解決する力を身に付けている」とする。
 - 「主体的に学習に取り組む態度」については、学習指導要領「2 内容」に、「学びに向かう力、人間性等」に関わる事項が示されていないため、「各教科等の評価の観点及びその趣旨」の「主体的に学習に取り組む態度」を基に作成する。その際、①粘り強さ、②自らの学習の調整、③実践しようとする態度を含めることに留意し、「様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて ※1、～について ※2、課題の解決に主体的に取り組んだり ④、振り返って改善したり ⑤して、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている ⑥」とする。
- ※1 教科及び科目の目標の文言 ※2 内容のまとめりの名称

4. 「単元の評価規準」、「指導と評価の計画」を作成して評価を実施する（裏面）【参照 P.37～】

指導と評価の計画【例】（高等学校家庭科）

<参考>「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
国立教育政策研究所 教育課程研究センター（令和3年8月）



＊単元の目標及び評価規準を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
＊どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

＊単元の検討
学習指導要領に基づき、解説に示された配慮事項及び各内容の特質を踏まえるとともに、効果的な学習が展開できるよう、内容AからDまでの各内容のまとまりや指導事項の相互の関連を図る。
その上で、学校、地域の実態、生徒の興味・関心や学習経験を踏まえ、単元を設定する。

家庭科 事例1（家庭基礎） キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで	【参照 P.45～】
単元名	内容をまとまり
成年として自立した経済生活を営むには	C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定

この単元は、「C 持続可能な消費生活・環境」の(1)「生活における経済の計画」ア及びイと(2)「消費行動と意思決定」ア及びイとの関連を図っている。単元のはじめに、改正民法の施行により、（令和4年4月1日から）18歳成年となることを踏まえて、成年となると何がかわるのかを理解するとともに、自分の生活を想起して財やサービスの購入や消費行動の課題を設定し、「生活における経済の計画」や「消費行動と意思決定」に関わる知識及び技能を身に付け、課題を解決する力を養い、自立した消費者として適切な意思決定に基づいた責任のある消費行動を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

本事例は、「指導と評価の計画から評価の総括まで」について具体的に示している。

1 単元の目標	＊学習指導要領に示された各科目の目標並びに単元で指導する項目及び指導事項を踏まえて設定する。
(1) 自立した生活を営むための知識・技能の理解	経済と社会との関わり、家計管理の仕組みなどについて理解する
(2) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、課題を見いだして課題を解決する力を身に付ける。	
(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	
2 単元の評価規準	＊各学校等で作成した「内容のまとまりごとの評価規準」を組み合わせ作成する。
知識・技能	学習に取り組む態度
・家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。	・経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を用いて経済の管理や計画の重要性、社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、

3 指導と評価の計画（10時間）	時間	ねらい・学習活動	＊重点 ＊記録	備考（・は評価規準、＊は指導上の留意点を示す）
1		18歳で大人？—大人として自立した消費者とは— 【ねらい】自立した消費者をめざし、自分の消費生活について問題を見だし、課題を設定することができる。		
		・成年として、健康・快適・安全かつ持続可能な自立した消費生活を営むためには、何がどのようにできるよくなればよいのだろうか。	思①	・生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、適切な意思決定に基づいて行動することなどについて、問題を見だして課題を設定している。 ワークシート ・何ができるようになるのか、それはなぜかを問い掛ける年齢が迫っていることを自覚させる。 ＊意思決定の力を鍛えるための単元全体を貫く課題を明示する。 ＊授業終了時に振り返りのテーマに沿って「学習のまとめと振り返り」を記入させ、「指導に生かす評価」として用いる。
		・振り返りシート（1枚ポートフォリオ）に「学習のまとめ」と「今日の振り返り」を記入する。【例3】		振り返りのテーマ 成年になるとどのような責任が生じるか考えよう。
		【単元全体を貫く課題】 成年として、健康・快適・安全かつ持続可能な自立した消費生活を営むためには、何がどのようにできるよくなればよいのだろうか。		＊意思決定の力を鍛えるための単元全体を貫く課題を明示する。 ＊授業終了時に振り返りのテーマに沿って「学習のまとめと振り返り」を記入させ、「指導に生かす評価」として用いる。
		家計とその特徴、家計管理 課題1 【ねらい】家計の構造、家計管理について理解し、ライフステージと関連付けた経済計画を考えることができる。		
4		・20代の給与明細と1か月に使う生活費のおよその平均額を比較・分析し、家計の関	知③	・給料の仕組み、家計の構造(可処分所得、非消費支出)について理解している。 ワークシート、(定期考査)
5		・1か月に使う生活費の平均額を比較・分析し、家計の関	思②	・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、ライフステージと関連付けて、課題

4 観点別学習状況の評価の進め方	＊指導と評価の計画に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。
(1) 知識・技能…次の2つの視点がある。 ①個別の知識及び技能の習得状況 ②それらを既得の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念として理解したり、技能を習得したりしているか	
(2) 思考・判断・表現…一連の問題解決的な学習過程の中で、生涯を見通して課題を解決する力が身に付いているかを評価する。次の4つの評価規準を設定することが考えられる。 ①問題を見だして課題を設定しているか ②様々な解決方法を検討し、計画、立案しているか ③実践を評価・改善しているか ④考察したことを根拠に基づいて論理的に表現しているか	
(3) 主体的に学習に取り組む態度…次の3つの側面から評価することが考えられる。 ①粘り強く取り組んでいるか ②自らの学習を調整しようとしているか ③実践しようとしているか	
5 観点別学習状況の評価の総括	＊集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括評価（A、B、C）を行う。